

横浜校舎近隣地域との関わりについて

1. 情報収集と学生への紹介

横浜校舎から徒歩圏内にあるボランティア先を中心に、コーディネーターが訪問し情報収集をおこなった。情報は「横浜校舎周辺ボランティア先」チラシにまとめ、近隣の活動先を求める学生への紹介ツールとして利用した。センターを訪れる学生たちのなかには、ボランティア活動に興味はあるけれど「実際に自分にできるだろうか」と不安を抱いている学生も多いが、コーディネーターが直接訪問してボランティアの活動内容や受け入れに関する考えを伺い、その声を具体的に学生に伝えることで、ボランティアに参加していった学生も多かった。一方、参加したいが時間があわないなどの理由で、実際には学生たちが活動できなかった訪問先があったことは残念である。次年度、地域で必要とされているボランティア募集の情報について、よりタイムリーに学生に周知できるよう、掲示方法などの改善を図っていききたいと考えている。

2. 自治会とのつながりでの活動

近隣自治会とつながりをもった活動としては、ボランティアセンターが仲立ちをして学生が自治会の行事に参加している。学生スタッフは毎年「倉田小学校地域防災拠点訓練」で防災をテーマにした紙芝居を作成し子どもたちに啓発活動をおこなっている。今年は紙芝居に加えて、着ぐるみを着た学生が子どもたちの前に登場し、人気者となった。その他にも、バトントワラー部は、グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会からの依頼を受け、春の「桜まつり」でパフォーマンスをおこなっている。2005年春からはじまったこの活動は今年で3回目となり、毎年地域の方から好評をいただいている。

1月からは地域と連携した新たな活動が動き出している。地域活動に学生が参加するプロジェクトを、校舎に隣接する小田急自治会にご協力いただいて実施することになった。身近な地域において、ボランティアや地域、社会などについて学生自身が考え、社会性もあわせて身につける機会を提供するものである。様々な経験を積んだ方とのかかわりの中で、学生自身のスキルアップをはかりたい。また、学生に身近な携帯電話を使って、地域活動のお手伝いをする試みも動き出した。舞岡地区で開催される、高齢者を対象にした「携帯電話講座」に学生がスタッフとして関わり、操作や文字入力を身につけるお手伝いをするというものである。身近な何気ないものを使って「ボランティア」ができるため、敷居が低い分、学生の気軽な参加が見込まれる。新たな視点でボランティアを考える機会として、継続的に実施していきたい。

3. 学校との連携

昨年度、南舞岡小学校の児童と本学生がともに舞岡公園でのボランティアをおこなったことがきっか

けとなり、「ボランティアについて、大学生の経験を伝えてほしい」という依頼が南舞岡小学校からボランティアセンターにあり、本学生が総合学習で話をする事となった。学生スタッフや有志学生たちは6年生を対象に「ボランティアとは、自分たちも楽しみながらできること」をテーマとして、ゲームなどを取り入れながら話をした。また5年生には、ボランティアセンターのプログラムでスマトラ沖津波支援のボランティアに行った学生たちが、津波被害の様子を伝えたり、現地の子どもたちに人気があった「手の平絵」のワークショップを子どもたちとおこなったりした。これら学生による活動は好評をいただいております、来年度も引き続きおこなわれる予定である。

また、本学に隣接する倉田小学校では「はまっ子ふれあいスクール」などの放課後活動を中心とした本学生の活動が以前から活発であったが、最近では、環境問題に関心をもつ学生がビオトープづくりに参加するなど、教育活動へのかかわりも進んでいる。

4. 戸塚区と学生の懇談会

10月には戸塚区長が本学を訪問したことがきっかけとなり、「学生たちの活動を地域に生かすにはどうしたらいいのか」について、区職員と学生たちの間で何度か意見交換がおこなわれた。話し合いから出された意見を生かし、「手話サークルほっけ」に新たな活動先が紹介された。また、戸塚高校の異文化理解講座の授業に「ハビタット MGU」を講師として迎える準備がはじめられるなど、学生の戸塚地域での活動が一步ずつ前進している。

5. 来年度に向けて

今年度ボランティアセンターでは、地域と学生を「つなぐ」をキーワードにさまざまな角度から取り組みをおこなってきた。上記の他には「サークルやグループの特技を生かし、ボランティアをしませんか」という呼びかけに応じた学生たちが、高齢者向けのデイサービスや小学校の放課後活動などで自分たちの活動を披露した。また、学生スタッフは毎年、春休みと夏休みを利用して地域ケアプラザや農園など、横浜校舎近隣でのボランティア活動を企画している²。今後は、本稿で紹介した活動に継続して取り組みながら、学生たちと地域のつながりがより発展したものになるよう、力を注いでいきたい。

(糸井)

¹ 詳しくは本書「I. 2007年度活動報告 サークルやグループへの支援」を参照。

² 「Let's Try!ボランティア」に関しては本書「I. 2007年度活動報告 横浜学生スタッフ活動報告」を参照。